

銀行名	四国銀行
タイトル	産学官連携による木質バイオマス発電の事業化支援
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知工科大学の研究に携わるA社の会長（高知工科大学特任教授）から、木質バイオマス発電の事業化および木質バイオマス発電事業とペレット製造販売（木質バイオマスボイラー向け）を行う高知工科大学発ベンチャー企業の設立に関する相談あり。 ・本件は、森林整備、環境保全、新エネルギーによる地域経済活性化、雇用の創出など、地域の面的再生に向けた取組みでもあったが、大学発ベンチャーが40億円を超える大型プロジェクトを事業化させることは資金調達の面で困難が予想された。また、木質バイオマス発電事業は木材の安定確保の面で課題があり、再生可能エネルギーの中でも事業化が困難であったが、地域金融機関として積極的に協力すべき案件として、行政と協力し官民一体となって取組んだ <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新会社設立を支援し、平成24年7月、高知工科大学内に新会社が設立された（出資者は、A社、地元企業、高知工大教授ほか） ・当行から高知県に働きかけ、県と連携し木材の安定調達に関する検討を開始。その後、高知県主導で森林組合等への説明会等が実施された。 ・高知県は平成25年3月議会で18.5億円の補助金交付を決定。 ・当行はメガバンクと、27億円（総事業費は48億円）の資金調達スキームを検討した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携事業による調査研究から、大学発ベンチャー企業の新規創業、そして官民一体となった地域産業創出に向けた大型プロジェクトの事業化に至った。 ・平成25年9月、当行とA行が共同アレンジャー、B行がコ・アレンジャーとなり、プロジェクトファイナンス形式のシンジケートローン（27億円）を組成。

銀行名	四国銀行
タイトル	「学官金」が連携した天敵昆虫ビジネスの創業支援
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さまサポート部担当が高知県の基金審査会等で創業事業に関する情報収集を行うなか、天敵昆虫を生産（高知大学との共同研究）し、農業者へ販売を行うA氏の事業プランに着目。高知県が環境保全型農業に積極的に取り組んでいることから、A氏の取組みが高知県農産品の更なる高付加価値化・ブランド化を図るうえで重要な位置付けになると考え、高知県や事業所最寄りの南国支店担当者と連携し、A氏の創業を支援するに至る。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A氏に対し、お客さまサポート部担当が法人設立や商品販路拡大に関するアドバイスを行ったほか、高知県、南国支店担当者と連携し、創業補助金の申請を支援。 <div data-bbox="587 1016 1385 1397" data-label="Diagram"> <pre> graph TD A["A氏 法人設立・創業補助金採択"] <--> 天敵昆虫生産の共同研究 B["高知大学"] C["当行・高知県 創業支援 法人設立アドバイス 商品販路拡大アドバイス 創業補助金申請支援"] --> A </pre> </div> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県農産品の高付加価値化・ブランド化につながる可能性のある取組みへの貢献。 ・当行が認定支援機関として創業補助金申請を支援した結果、創業補助金は採択され、同氏との預金取引を開始。 ・今後は、必要に応じて資金協力を行っていく。

銀行名	四国銀行
タイトル	直接貿易拡大のサポート
取組み内容	<p>取引先 A 社は調味料等食品製造会社。従前は、商社を通じて海外に販売していたが、近年、直接海外への販路拡大を目指す事業体制へと移行。</p> <p>【経緯】 A 社は、直接貿易は数先行っていたものの、小ロットであり、知識・情報が不足していたため、下記について当行へ相談があった。 インターネットサイトに英語表記を追加したところ、海外からの問合せが増え、今後直接貿易を拡大するにあたって海外対応できるスタッフ育成が急務。 海外への販路拡大方法。 貿易実務や決済方法。 ハラール等海外食品市場の情報。 海外への販路拡大にかかるリスク対応。</p> <p>【取組内容】 国際即戦力育成インターンシップ（HIDA）の紹介。 海外バイヤー（日本へ招聘）との商談会の案内。 貿易実務や決済方法について説明。貿易実務セミナーの案内。 当行のシンガポールのトレーニーが ASEAN 市場の調味料やハラール食品に関する調査レポートを作成し、提供。 貿易保険の紹介、信用調査会社の紹介。</p> <p>【取引先にとっての効果】 ・今後、直接貿易を拡大していくにあたり必要な実務や市場の情報・知識が得られた。シンガポールのトレーニー作成の調査レポートでは、実際のスーパー・小売店等で販売されている食品の種類・価格・ラベル等を確認することができた。 ・取引を検討している海外バイヤーの信用調査を行うことで、相手の信用力の確認が可能となり、商談を進めるか否かの判断材料とすることができた。 ・政府機関主催の商談会等に参加することで、ある程度信用力のある海外バイヤーと直接商談できる場が得られ、販路拡大の足掛かりとなった。</p>

銀行名	四国銀行
タイトル	環境保全への取組み
取組み内容	<p>【経緯】 環境問題への取組みを重要な経営課題と位置付け、本店及び本店別館においてISO14001の認証を取得のうえ、省エネ・省資源、森林保全活動や環境関連商品の開発など積極的に環境保全活動に取り組んでいる。</p> <p>【取組内容】 <「協働の森事業」への参加> 高知県、高知市と「協働の森事業」パートナーズ協定を締結、高知市鏡柿ノ又の市有林を「未来を鏡に～四銀絆の森」と名付け、当行行員および家族が、高知市の職員の方々が結成したNPO「こうち森林救援隊」と協働で間伐ボランティア活動を行っている。</p> <p><「四銀絆の森」交流会の開催> 「四銀絆の森」に毎年小学生や保護者を招待し交流会を開催している。交流会では植樹、間伐見学、木工教室などを実施し、森林の大切さを学んでもらっている。</p> <p><里山保全活動> 森林保全活動の一環として、里山および周辺の整備や清掃をNPOと協働で行っている。</p> <p>平成25年度は、高知市筆山の公園の桜の木が長い年月で傷んで植え替えが必要になっていたことから、植え替えや周辺の整備を行った。</p> <p><環境関連商品の開発> 平成25年が当行の創業135周年であることから、平成25年7月に高知市よりオフセット・クレジット135tを移転・購入した。これは当行が間伐を行っている「四銀絆の森」が、高知市のCO2吸収プロジェクトに含まれることから、「四銀絆の森」で創出されたオフセット・クレジット28tの移転に加え、107tを追加購入したものの。</p> <p>これを活用した環境配慮型商品「<四銀>「絆の森」カーボンオフセット定期預金・定期積金」を平成25年10月に発売。（取扱期間平成26年9月まで）</p> <p>【取組みの効果】 ・間伐や里山の整備等により、当行行員の環境保全に対する意識が醸成されてきている。 ・「四銀絆の森」交流会への参加を通じ、小学生・保護者から「森林の大切さが実感できる」と好評を得ている。</p>